

岡山県感染症週報 2025年第9週 (2月24日～3月2日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

岡山県は『食中毒(ノロウイルス)注意報』発令中です

◆2025年 第9週 (2/24～3/2) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況 (第9週届出)

第7週	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 2名 (70代 女 1名、80代 男 1名)
		梅毒 1名 (20代 男)
第8週	2類感染症	結核 1名 (70代 男)
	5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (80代 男)
		水痘 (入院例) 1名 (20代 男)
		梅毒 4名 (30代 女 1名、40代 女 1名、50代 女 1名、60代 男 1名)
第9週	2類感染症	結核 2名 (80代 男 1名、100代 女 1名)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1名 (80代 男)
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名 (80代 男)
		侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (小学生 男)
		梅毒 2名 (40代 男 1名、50代 男 1名)
		百日咳 3名 (小学生 女 1名、中学生 女 2名)

効果的な場面でのマスク着用!



© 岡山県「ももち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ/COVID-19 定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で 383 名 (定点あたり 4.56 人) の報告がありました。
- インフルエンザは、県全体で 81 名 (定点あたり 0.96 人) の報告がありました。
- 感染性胃腸炎の報告数が多くなっています。

1. [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で 383 名の報告があり、前週から減少しました (定点あたり 5.20 → 4.56 人)。詳しくは、「[★新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ [『新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報』](#) をご覧ください。
2. [インフルエンザ](#) は、県全体で 81 名の報告があり、前週から減少しました (定点あたり 1.25 → 0.96 人)。岡山県は、[『インフルエンザ注意報』](#) を発令し、広く注意を呼びかけています。詳しくは、「インフルエンザ週報」および岡山県感染症情報センターホームページ [『2024/25 年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中!』](#) をご覧ください。
3. [感染性胃腸炎](#) は、県全体で 529 名の報告があり、前週とほぼ同数でした (定点あたり 10.69 → 9.80 人)。地域別では、備北地域 (16.25 人)、備中地域 (11.86 人)、岡山市 (11.14 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山県は [『食中毒\(ノロウイルス\)注意報』](#) を発令し、食中毒予防を呼びかけています。冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底、食品の十分な加熱、おう吐物・下痢便の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めましょう。県内の発生状況など、詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ [『2024/25 年 感染性胃腸炎情報』](#) をご覧ください。
4. [梅毒](#) は、2025 年第 9 週に 2 名の報告があり、2025 年の累計報告数は 38 名となりました (2024 年の同時期：71 名)。なお、2024 年の累計報告数は、1999 年の感染症法施行以降、最多の 355 名でした (2025 年 3 月 5 日時点)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『梅毒について』](#) をご覧ください。

疾病名	定点あたり患者数		推移	疾病名	定点あたり患者数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	1.25	0.96	↓	ヘルパンギーナ	0.00	0.06	↑
RSウイルス感染症	0.78	0.76	→	流行性耳下腺炎	0.06	0.02	↓
咽頭結膜熱	0.31	0.26	↓	急性出血性結膜炎	0.00	0.00	→
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	0.72	↓	流行性角結膜炎	0.75	0.75	→
感染性胃腸炎	10.69	9.80	→	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
水痘	0.00	0.04	↑	無菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
手足口病	0.06	0.06	→	マイコプラズマ肺炎	1.20	0.00	↓
伝染性紅斑	0.09	0.02	↓	クラミジア肺炎	0.00	0.00	→
突発性発しん	0.09	0.17	↑	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.00	→

【記号の説明】 前週からの推移 ↑：増加 →：ほぼ増減なし ↓：減少 増加・減少：前週比10%以上の増減

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)***、**つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。

体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [日本紅斑熱とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)
- ⇒ [ツツガムシ病とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)



吸血後の
フタゲチマダニ♀



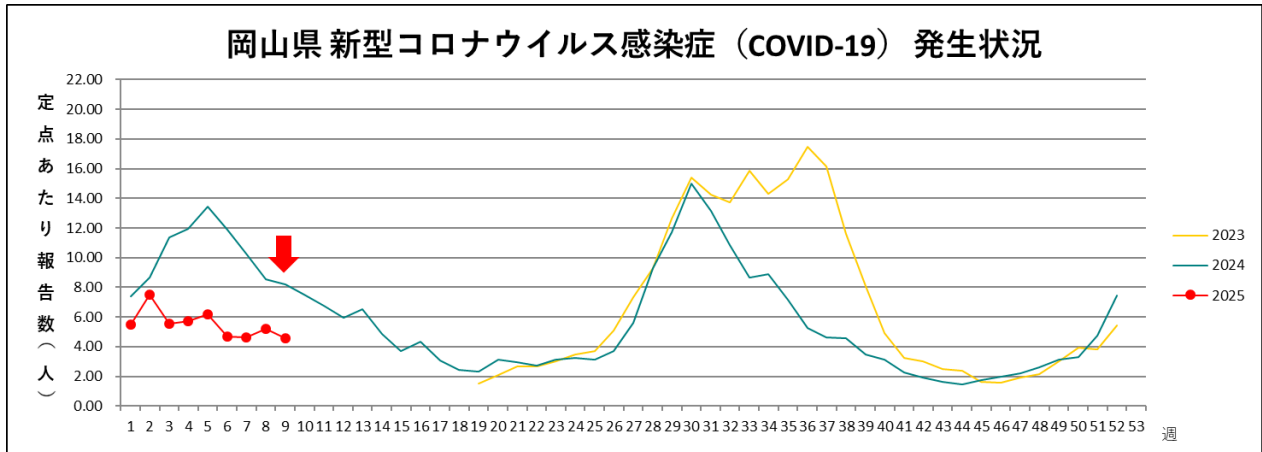
ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 撮影画像

★新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報

岡山県の流行状況（第9週（2/24～3/2））

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で383名（定点あたり4.56人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。



※ 2023年は定点把握対象へ移行した第19週から表示しています。

※ 全数把握時のデータは[こちら](#)

※ 2023年5月7日（2023年第18週）までの全数把握の患者数をもとに、2023年5月8日以降の定点医療機関からの報告患者数を抽出して集計した患者数の推移（参考値）は[こちら](#)をご覧ください。→ [厚生労働省 HP](#)

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で383名の報告があり、前週から減少しました（定点あたり5.20→4.56人）。地域別では、備北地域（8.67人）、真庭地域（7.00人）、備中地域（6.75人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年代別では、10代以下、40代および80代以上の年代で前週から減少しました。

基本的な感染防止策（効果的な場面でのマスク着用、手洗い等の手指衛生、換気、3密（密閉・密集・密接）の回避、健康的な日常生活、体調不良時の備え）に留意し、自主的な判断により実施しましょう。

●新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とは

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中で流行が継続している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m以内）で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空気中に留まりうることから、換気が不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。

●症状

日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が2～3日と短く、また、発症前からウイルスを排出し、感染源となることが分かっています。上気道で増殖しやすい特性から、従来株（デルタ株等）に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後期に感染すると、早産率が高まり、患者本人も一部は重症化することが報告されています。（[新型コロナウイルスに関するQ&A（一般の方向け）（厚生労働省）](#)）。

●ワクチン接種について

ワクチンは新型コロナウイルス感染症にかかった場合に重症化を予防する効果があるとされています。原則として、接種費用の自己負担がありますが、任意接種または定期接種（対象者は次のとおり）が可能です。

なお、定期接種の実施時期および費用は市町村によって異なりますので、詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせ下さい。

・65歳以上の方

・60～64歳で、心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）により免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方

詳しくは以下をご覧ください。

・[新型コロナウイルスワクチンについて（厚生労働省）](#)

・[新型コロナウイルスワクチンについて（岡山県疾病感染症対策課）](#)

なお、り患後症状（いわゆる後遺症）については、以下をご覧ください。

・[罹患後症状のマネジメント・第3.0版（2023年10月20日発行）](#)

・[『新型コロナウイルス感染症罹患後も続く症状（後遺症）にお悩みの方へ』（岡山県ホームページ）](#)



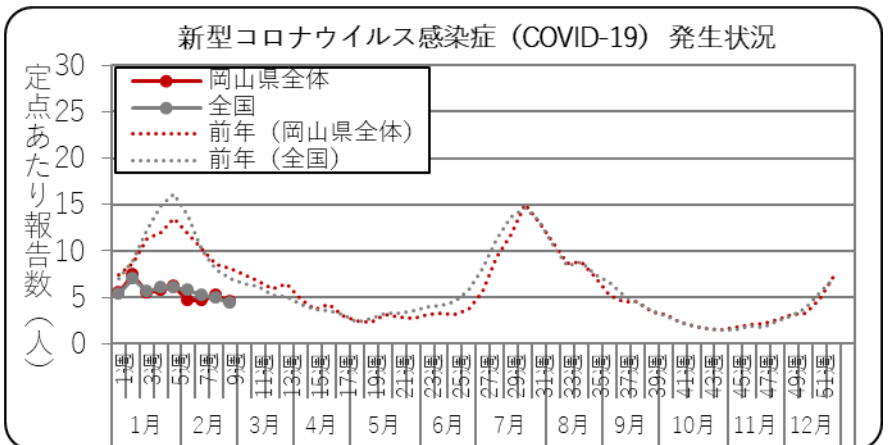
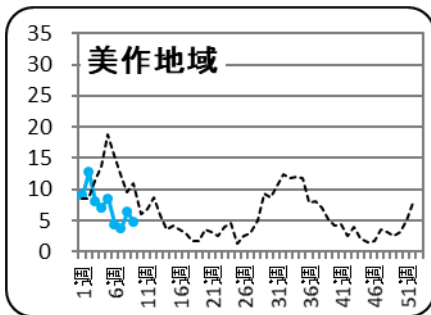
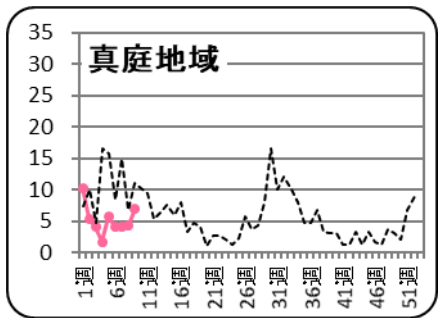
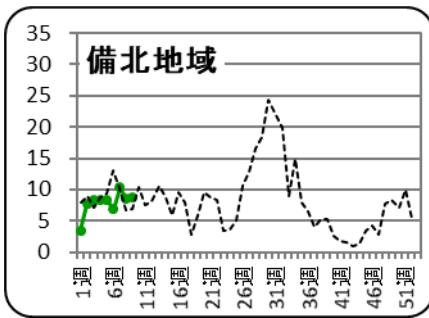
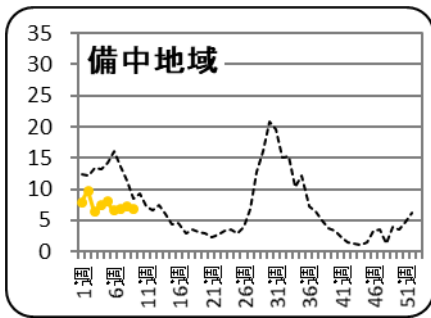
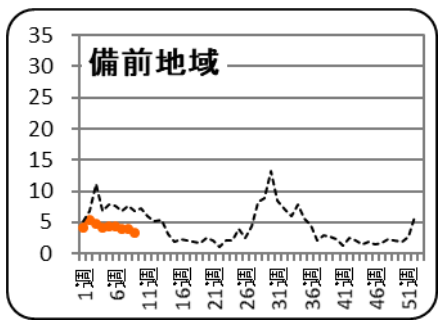
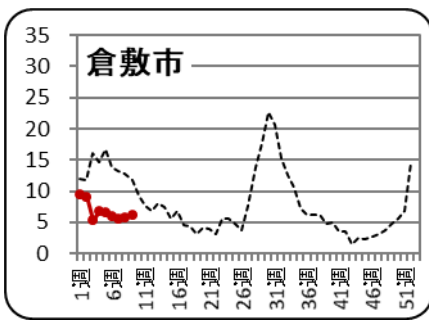
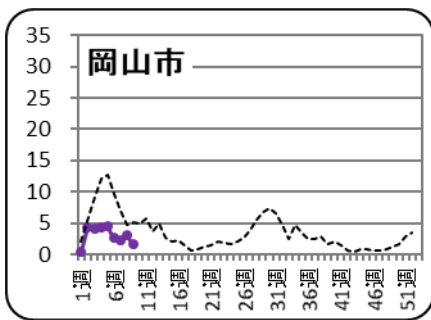
基本的な感染症対策！

© 岡山県「ももっち」

1. 地域別発生状況

地域名	発生状況 (人)		推移	地域名	発生状況 (人)		推移
岡山県全体	患者数	383	↑	備 中	患者数	81	→
	定点あたり	4.56			定点あたり	6.75	
岡山市	患者数	34	↑	備 北	患者数	52	→
	定点あたり	1.55			定点あたり	8.67	
倉敷市	患者数	98	→	真 庭	患者数	21	→
	定点あたり	6.13			定点あたり	7.00	
備 前	患者数	49	↑	美 作	患者数	48	↑
	定点あたり	3.27			定点あたり	4.80	

【記号の説明】 前週からの推移 ↑ : 大幅な増加 → : 増加 → : ほぼ増減なし ↓ : 減少 ↓ : 大幅な減少
 大幅 : 前週比 100%以上の増減 増加・減少 : 前週比 10~100%未満の増減



※前年データは破線で示しています。

○全国の発生状況

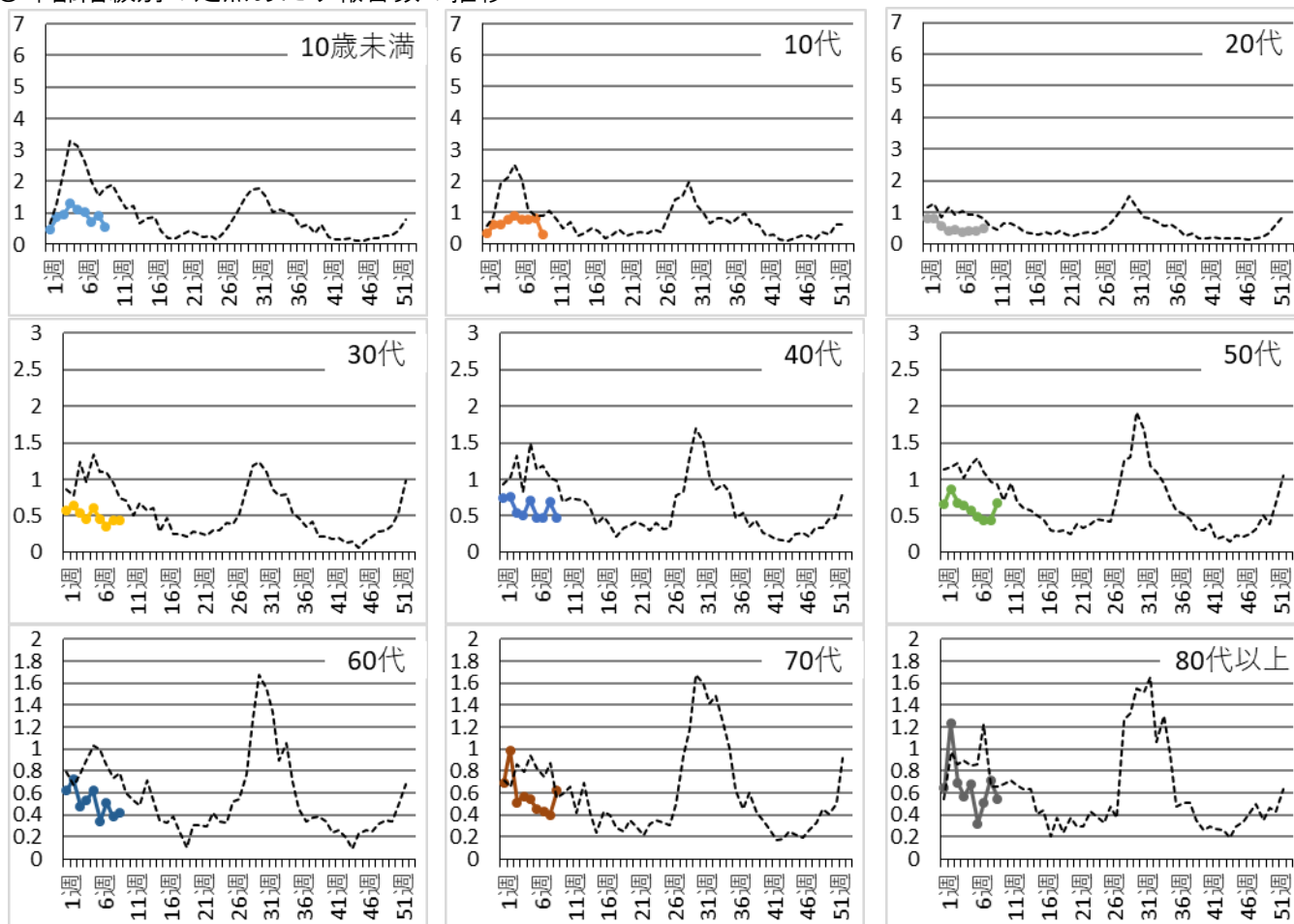
全国集計 2025 年第 9 週速報値 (2025 年 3 月 5 日時点) によると、全国の定点あたり報告数は 4.42 人となり、前週から減少しました。

2. 年齢別発生状況

○第9週 (単位: 名)

合計	0-3歳	4-6歳	7-9歳	10-14歳	15-19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
383	27	9	11	18	9	42	37	40	57	35	52	46

○年齢階級別の定点あたり報告数の推移



※前年データは破線で示しています。

📢 留意点: 年齢階級別の報告数の考え方について

定点医療機関は、小児科定点(54 医療機関)が内科定点(30 医療機関)に比べて多いため、報告数は小児に偏ります。一方で、年齢階級別の報告数により、経時的な流行全体の傾向(トレンド)と水準(レベル)の把握および年齢階級ごとにおける流行の傾向と水準を把握することができます。

3. 新型コロナウイルス検出状況 (ゲノム解析)

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ [新型コロナウイルスのゲノム解析 \(岡山県感染症情報センター\)](#)

○全国の状況

→ [SARS-CoV-2 変異株について \(国立感染症研究所\)](#)

風しんの抗体検査(無料)を受けましょう!

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群(CRS)^{*}の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます \(岡山県疾病感染症対策課\)](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています(2025年3月31日まで)。

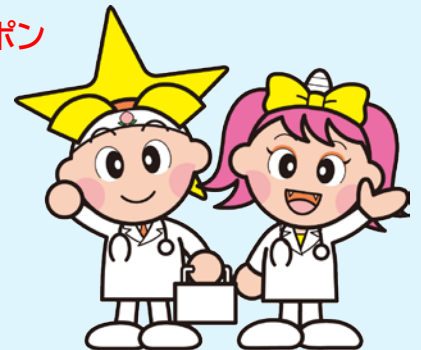
以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

**岡山県の2019年4月~2024年11月の風しんのクーポン
使用実績(抗体検査)は、35.6%と未だに低い状況です!
CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を
受けましょう!**

[風しんの追加的対策について \(厚生労働省\)](#)
[風疹に関する疫学情報 \(国立感染症研究所\)](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト \(日本産婦人科医会\)](#)



© 岡山県「ももっち・うらっち」

インフルエンザ週報 2025年 第9週 (2月24日～3月2日)

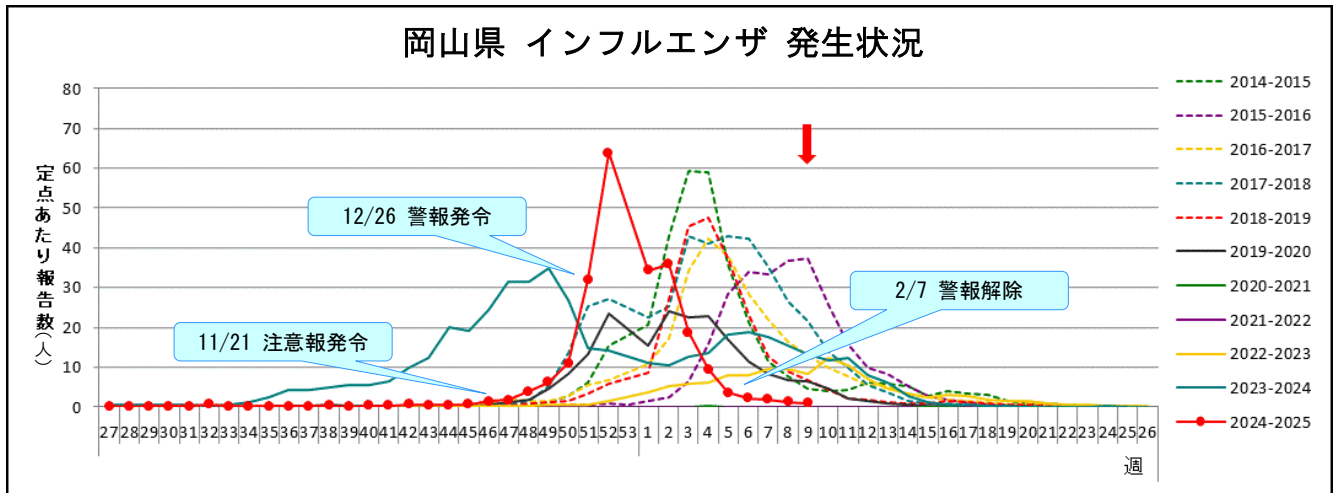
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で81名（定点あたり0.96人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が5施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者はありませんでした。

【第10週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が4施設でありました（3月3日～5日）。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で81名の報告があり、前週から減少しました（定点あたり1.25 → 0.96人）。

岡山県は、『インフルエンザ注意報』を発令し、広く注意を呼びかけています。

地域別では、美作地域（2.00人）、倉敷市（1.81人）、備中地域（1.25人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

県内の発生状況に注意するとともに、基本的な感染防止策（場面に応じたマスクの着用、手洗い等の手指衛生、人混みを避ける）、健康的な日常生活等に留意し、感染予防・感染対策に努めましょう。

◆インフルエンザの流行が継続しています。

引き続き感染に注意しましょう◆

【感染予防と感染対策の徹底】

- ・場面に応じたマスクの着用、手洗い、手指消毒の徹底
- ・室内の適度な湿度の設定、定期的な空気の入換え
- ・高齢者や基礎疾患のある方などは、人混みを避ける
- ・十分な休養、バランスのとれた食事

【発熱等の症状が出た際の対応】

- ・無理をして学校や職場等に行かないようにしましょう
- ・かかりつけ医などの医療機関を早めに受診しましょう（受診の際はマスクを着用しましょう）
- ・周りの方へうつさないように「咳エチケット」を！
- ・水分を十分にとり、安静にして休養をとる

⇒ 詳細は岡山県ホームページ [『インフルエンザ対策について』](#) をご覧ください。

1. 地域別発生状況

地域名	発生状況 (人)		推移	地域名	発生状況 (人)		推移
岡山県全体	患者数	81	▲	備 中	患者数	15	▲
	定点あたり	0.96			定点あたり	1.25	
岡山市	患者数	10	▲	備 北	患者数	4	▲
	定点あたり	0.45			定点あたり	0.67	
倉敷市	患者数	29	▲	真 庭	患者数	1	▲
	定点あたり	1.81			定点あたり	0.33	
備 前	患者数	2	▲	美 作	患者数	20	▶
	定点あたり	0.13			定点あたり	2.00	

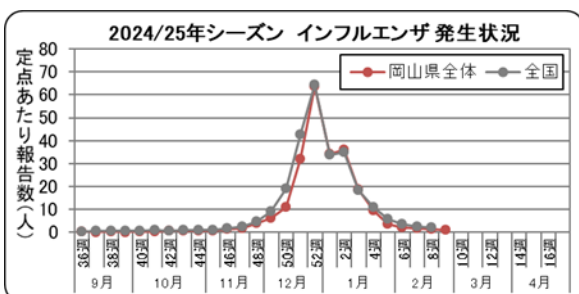
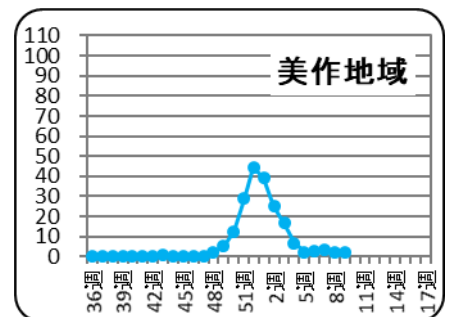
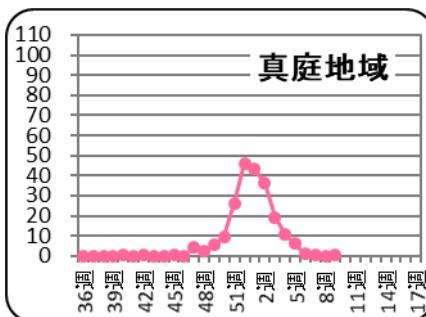
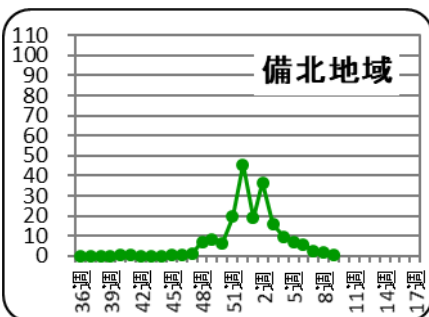
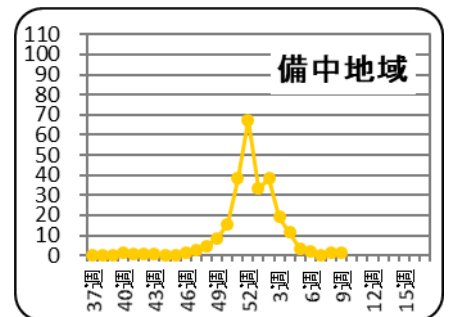
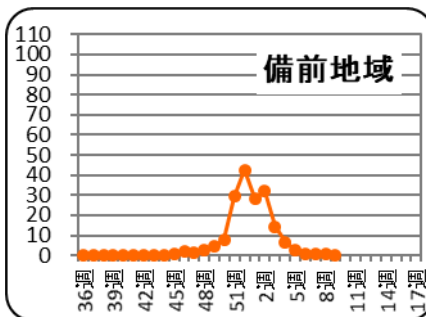
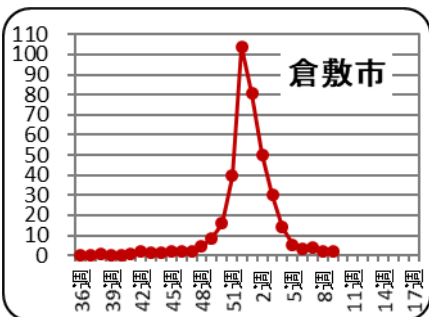
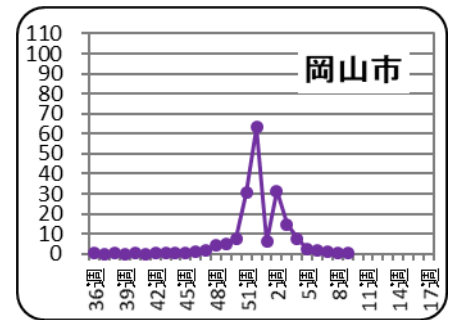
【記号の説明】 前週からの推移 ▲ : 大幅な増加 ▲ : 増加 ▶ : ほぼ増減なし ▼ : 減少 ▼ : 大幅な減少
 大幅 : 前週比 100%以上の増減 増加・減少 : 前週比 10~100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

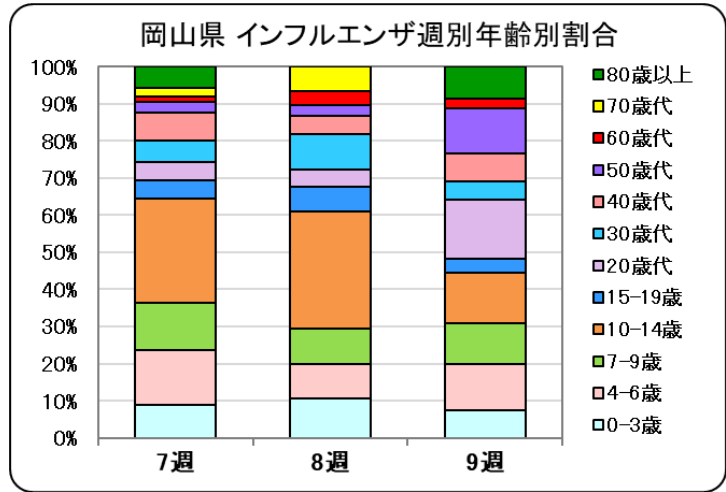
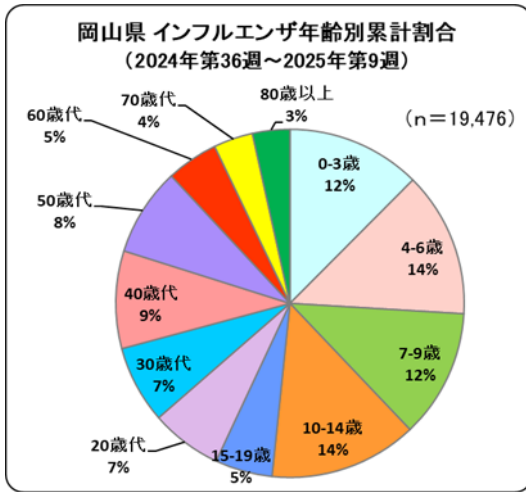
レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10 未満		0



全国集計 2025 年第 8 週 (2/17~2/23) 速報値によると、全国の定点あたり報告数は 2.21 人となりました。都道府県別では、沖縄県 (8.66 人)、新潟県 (6.07 人)、山形県 (4.59 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。37 都道府県で前週の報告数から減少しました。

[インフルエンザの発生状況について \(厚生労働省\)](#)

2. 年齢別発生状況



留意点: 年齢階級別の報告数の考え方について

定点医療機関は、小児科定点(54 医療機関)が内科定点(30 医療機関)に比べて多いため、報告数は小児に偏ります。

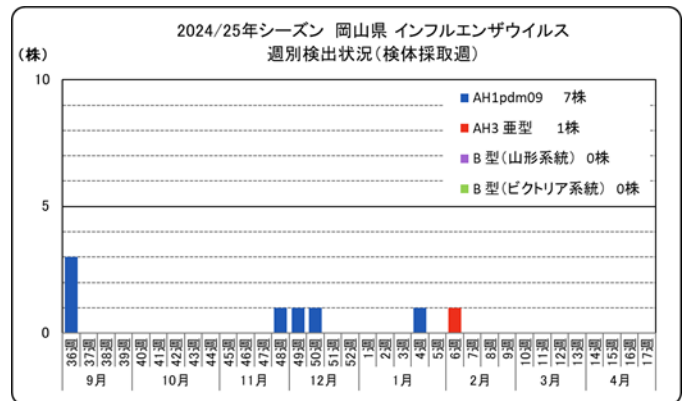
3. インフルエンザウイルス検出状況

【岡山県】

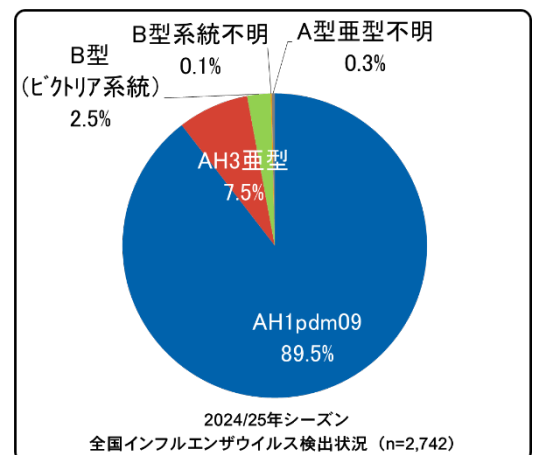
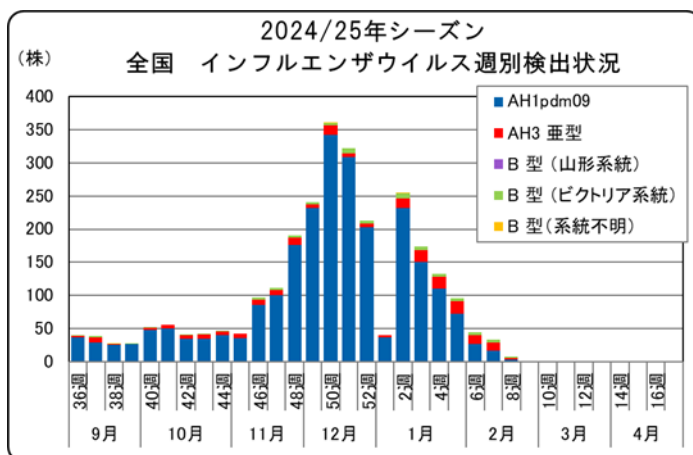
今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは8株で、AH1pdm09が7株、AH3亜型が1株となっています。

【全国】

今シーズン、これまでに検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09が2,455株、AH3亜型が207株、B型(ビクトリア系統)が68株、A型亜型不明が9株、B型系統不明が3株となっています(3月4日現在)。

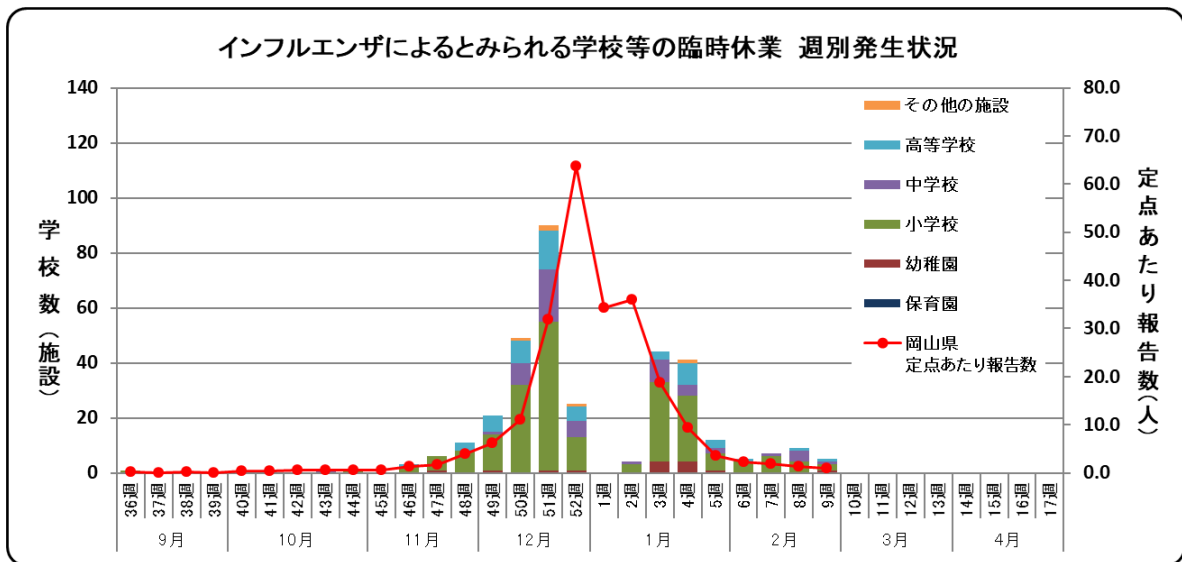


インフルエンザウイルス分離・検出速報(国立感染症研究所)



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、5施設でありました。



臨時休業施設数の内訳

	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
第9週	0	1	2	1	1	0	5
累計	0	14	206	56	54	5	335

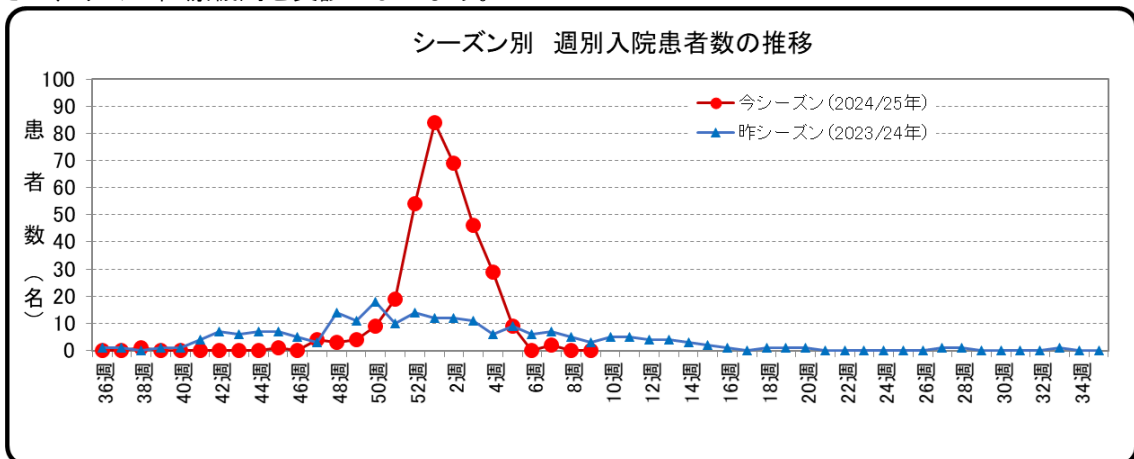
最新の臨時休業の情報については以下のホームページをご覧ください。

→ [\(R6年度シーズン\) 岡山県内の学校等におけるインフルエンザとみられる臨時休業](#)

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずウトウトしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【2024年9月2日（第36週）以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	6	32	21	8	2	4	1	7	27	41	81	104	334
ICU入室*		1	3				1	3	7	4	7	5	31
人工呼吸器の利用*		1	1				1	3	4	1	6	5	22
頭部CT検査(予定含)*		2	2	2				1	3	4	10	17	41
頭部MRI検査(予定含)*		7	6	1					1		3	2	20
脳波検査(予定含)*		3	3	2									8
いずれにも該当せず	6	23	11	6	2	4		4	19	33	64	80	252

* 重複あり

[令和6年度 インフルエンザQ&A（厚生労働省）](#)

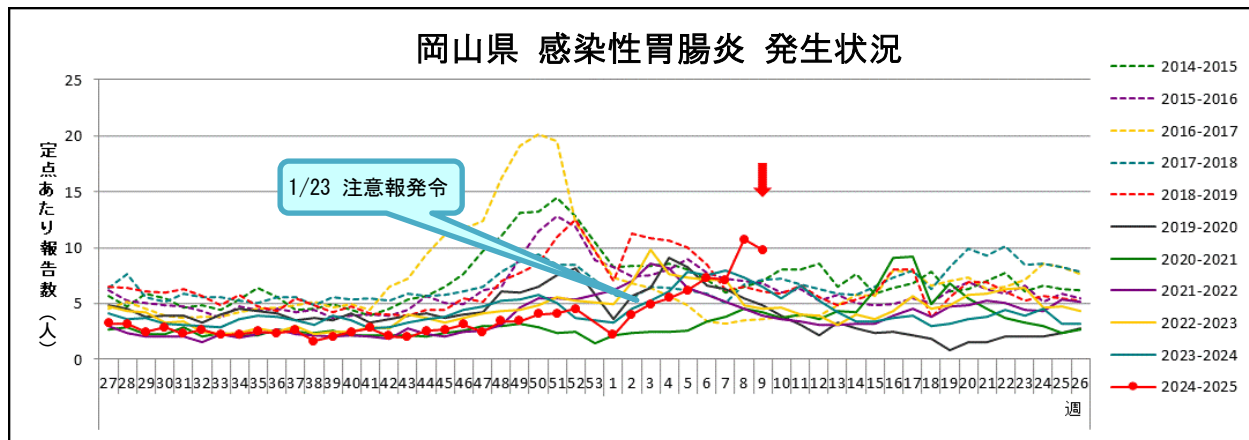
[令和6年度 今シーズンのインフルエンザ総合対策について（厚生労働省）](#)

感染性胃腸炎週報 2025年 第9週 (2月24日～3月2日)

岡山県は『食中毒(ノロウイルス)注意報』発令中です

岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で529名(定点あたり9.80人)の報告がありました(54定点医療機関報告)。

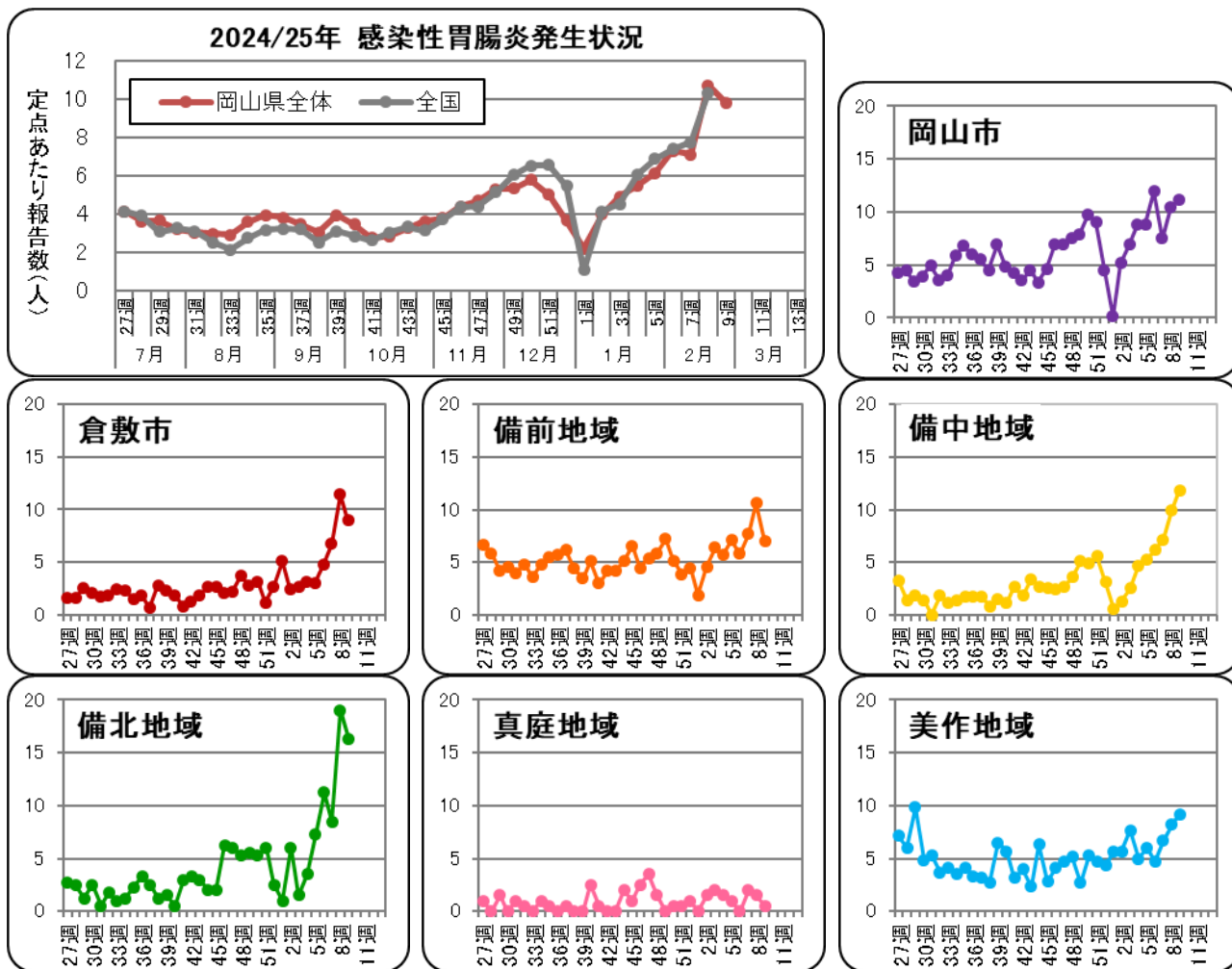


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年26週でグラフを作成しています。

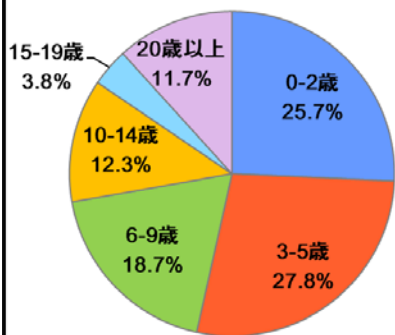
感染性胃腸炎は、県全体で529名の報告があり、前週とほぼ同数でした(定点あたり10.69→9.80人)。

冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底、食品の十分な加熱、おう吐物・下痢便の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めましょう。特に乳幼児や高齢者は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

◆地域別・年齢別発生状況



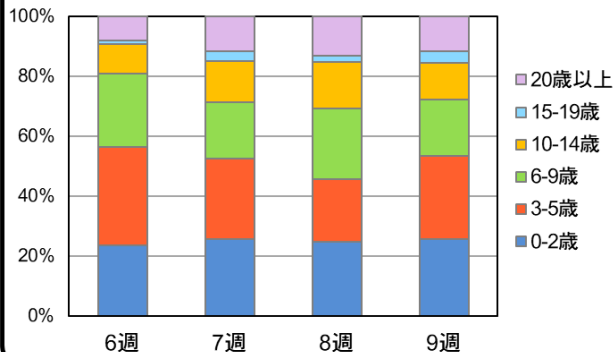
感染性胃腸炎 年齢別割合 (第9週)



レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
20	12		0 < 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がるまでレベル3が継続されます。

岡山県 感染性胃腸炎 週別年齢別割合



小児科定点 (54 定点医療機関) からの報告によると、2025 年第 9 週の年齢別割合では、3-5 歳 27.8%、0-2 歳 25.7%、6-9 歳 18.7%の順に多く報告されています。

◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に 気をつけましょう ◆◆

< 予 防 方 法 >

1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。これらを処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、ペーパータオルなどで静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上の熱水処理または**次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、熱水処理または次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。(中心部を85~90℃で90秒間以上)

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。



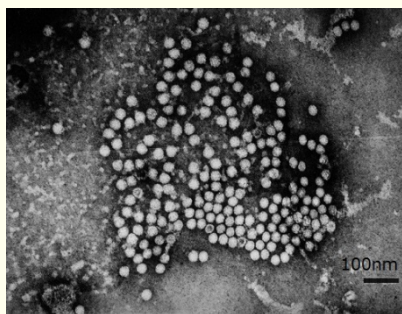
© 岡山県「ももっち」

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。また、アルコールの効果は低いとされています。

●ノロウイルスに関するQ&A (厚生労働省)

◆ ロタウイルスにも気をつけましょう ◆

●ロタウイルス (厚生労働省)



ノロウイルスの電子顕微鏡写真
岡山県環境保健センターウイルス科 撮影



保健所別報告患者数 2025年 9週(定点把握)

(2025/02/24~2025/03/02)

2025年3月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	81	0.96	10	0.45	29	1.81	2	0.13	15	1.25	4	0.67	1	0.33	20	2.00
RSウイルス感染症	41	0.76	18	1.29	14	1.27	-	-	-	-	-	-	3	1.50	6	1.00
咽頭結膜熱	14	0.26	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	10	1.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	0.72	8	0.57	10	0.91	6	0.60	6	0.86	3	0.75	1	0.50	5	0.83
感染性胃腸炎	529	9.80	156	11.14	99	9.00	70	7.00	83	11.86	65	16.25	1	0.50	55	9.17
水痘	2	0.04	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	3	0.06	-	-	-	-	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	9	0.17	3	0.21	4	0.36	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	0.06	-	-	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	0.75	1	0.20	7	1.75	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2025年 9週(発生レベル設定疾患)

(2025/02/24～2025/03/02)

2025年3月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	81	0.96	10	0.45	29	1.81	2	0.13	15	1.25	4	0.67	1	0.33	20	2.00
咽頭結膜熱	14	0.26	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	10	1.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	0.72	8	0.57	10	0.91	6	0.60	6	0.86	3	0.75	1	0.50	5	0.83
感染性胃腸炎	529	9.80	156	11.14	99	9.00	70	7.00	83	11.86	65	16.25	1	0.50	55	9.17
水痘	2	0.04	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	3	0.06	-	-	-	-	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	0.06	-	-	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	0.75	1	0.20	7	1.75	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2025年 第9週 2025/02/24~2025/03/02)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~	
インフルエンザ	81	1	-	1	3	1	2	1	7	3	3	3	11	3	13	4	6	10	2	-	7

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~	
RSウイルス感染症	41	3	5	11	10	4	5	1	2	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	14	-	2	2	4	2	-	1	-	-	-	1	1	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	-	-	1	2	3	1	3	3	4	2	4	8	2	6
感染性胃腸炎	529	2	19	50	65	55	45	47	41	26	13	19	65	20	62
水痘	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	
手足口病	3	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
突発性発疹	9	1	1	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	3	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	1	1	1	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

保健所別

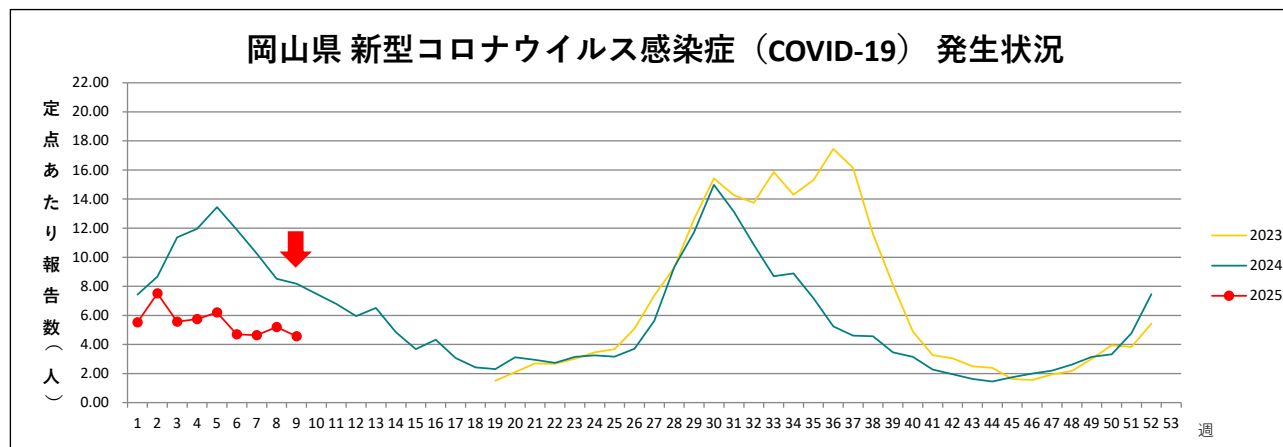
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	383	4.56	34	1.55	98	6.13	49	3.27	81	6.75	52	8.67	21	7.00	48	4.80

(- : 0 or 0.00)

年齢別

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	383	-	5	10	8	4	2	4	3	4	3	4	18	9	42	37	40	57	35	52	46

(- : 0)



全数把握 感染症患者発生状況

2025年 9週

分類	疾病名	2025		2024	疾病名	2025		2024	疾病名	2025		2024
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-								
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	40	246	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-								
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	-	7	63
	腸チフス	-	-	2	パラチフス	-	-	-				
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	4
	エキノкокクス症	-	-	-	エムポックス	-	-	-	黄熱	-	-	-
	オウム病	-	-	-	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-
	キャサヌル森林病	-	-	-	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	1
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	-
	デング熱	-	-	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	21	日本脳炎	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	6	42
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-				
五類	アメーバ赤痢	-	-	10	ウイルス性肝炎	-	1	5	カルバベナム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	11	36
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	3	急性脳炎	-	5	16	クリプトスポリジウム症	-	-	-
	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	3	30	後天性免疫不全症候群	-	1	8
	ジアルジア症	-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	2	13	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	19	35	水痘(入院例に限る。)	-	1	11	先天性風しん症候群	-	-	-
	梅毒	2	38	355	播種性クリプトコックス症	-	-	5	破傷風	-	-	-
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	百日咳	3	24	19
	風しん	-	-	-	麻しん	-	2	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

